



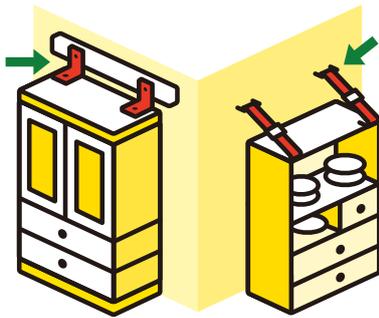
愛着のある家具を 凶器にしないために

1995年の阪神・淡路大震災時のデータによると、家の中で負ったケガの原因の約50%が「家具の転倒」だったそうです。2011年の東日本大震災では、東京エリアも大きな揺れに見舞われ、タンスの上のモノやテレビ、パソコンなどが落下したという話をよく耳にします。「家具は倒れるのではなく、飛んできた」。阪神・淡路大震災の被災者が残した衝撃的な証言です。選びぬいて購入した愛着のある家具を凶器にしないために、「家具の転倒防止」は個人がすぐに行える最重要かつ最優先の防災対策です。本サイトでは、家具以外の照明や窓ガラス、液晶薄型テレビなどの防災対策も紹介しています。ぜひこのコーナーを参考にして、自分や大切な家族の命を守る防災対策の第一歩を踏み出してください。





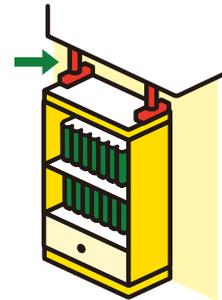
家の中の防災対策



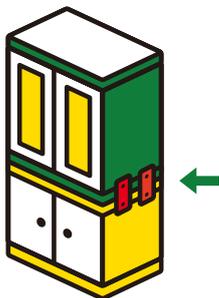
L型金具やベルト式器具などで、家具と壁とを固定する。



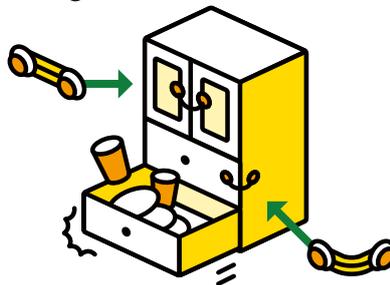
ストッパー式器具で、家具を壁側に傾斜させる。



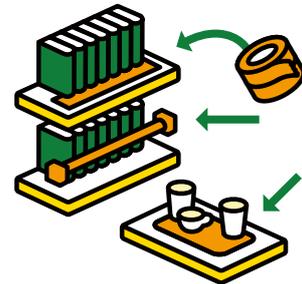
家具と天井との間を、つっぱり棒などで固定する。



二段重ねの家具は、平型金具などで上下を連結し、一体化させる。



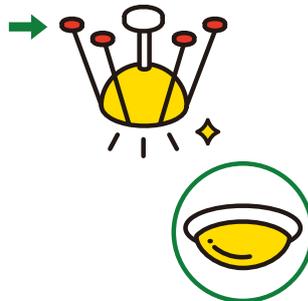
引き出しや開き扉には、飛び出し防止器具を取り付ける。



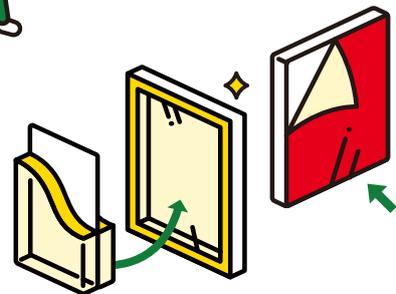
本棚などには、落下を防ぐ抑制テープや器具を取り付ける、またはすべり止めシートを敷く。



PC機器類は、粘着マットやストラップ式器具で机と固定する。



照明器具は、直付照明器具に交換するか、数カ所天井に固定する。

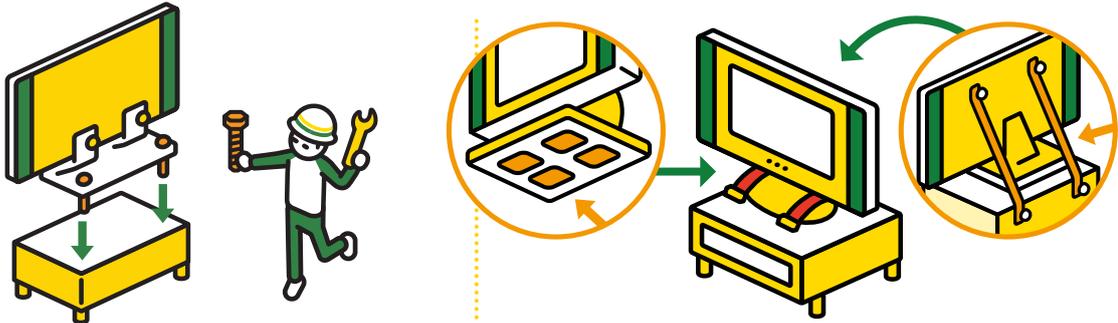


窓ガラスは、飛散防止対策済みのガラスに交換するか、飛散防止フィルムを貼る。



家の中の防災対策

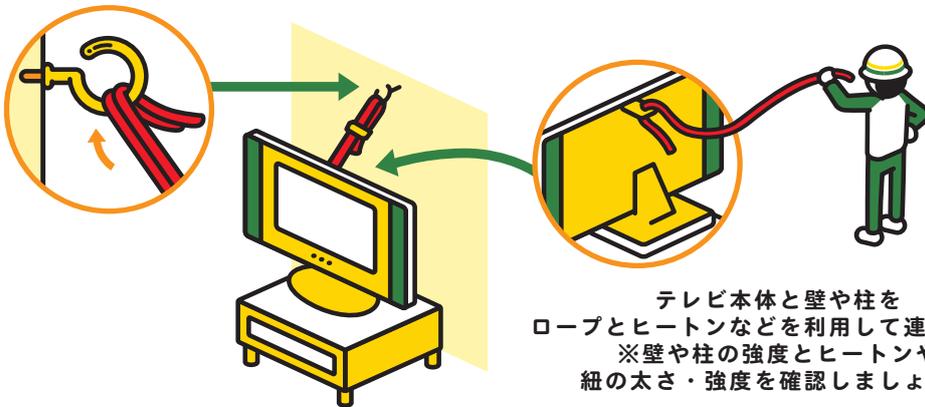
◎ 液晶テレビとテレビ台の固定



テレビ本体とテレビ台をボルトなどで固定する。
※取扱説明書に従って取り付けましょう。

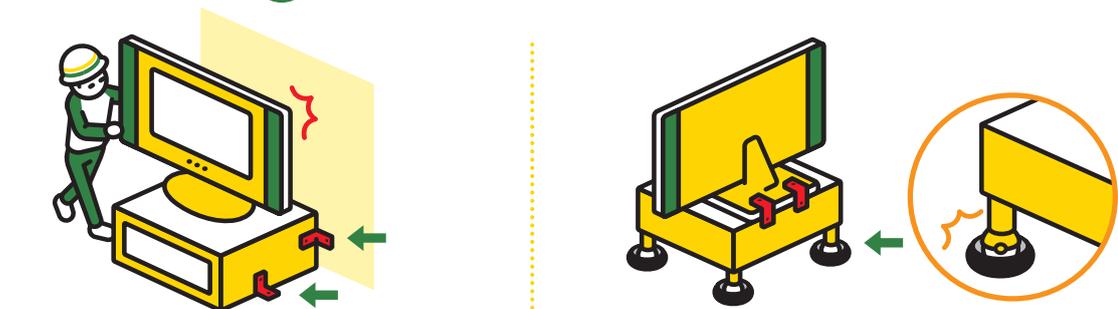
ボルト固定ができない場合、テレビ本体とテレビ台を
ストラップ式器具や粘着性マットなどで固定する。

◎ 液晶テレビと壁・柱の連結



テレビ本体と壁や柱を
ロープとヒートンなどを利用して連結する。
※壁や柱の強度とヒートンや
紐の太さ・強度を確認しましょう。

◎ テレビ台と床・壁の固定



テレビ台と床や壁を
L字金具やベルト式器具などで固定する。

キャスター式のテレビ台の場合は、
ゴム製キャップなどをして転がらないようにする。

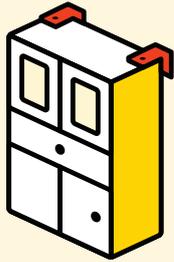


家具転倒防止グッズの効果

単独使用

効果

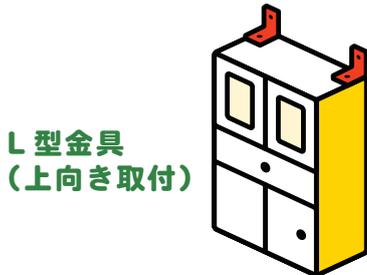
組み合わせて使用



L型金具
(下向き取付)

効果ナンバー1!

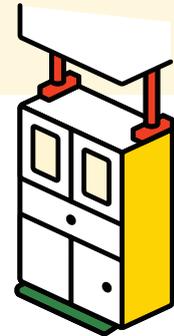
大



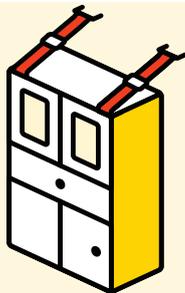
L型金具
(上向き取付)



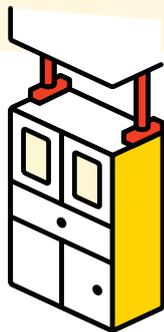
ポール式
+
マット式



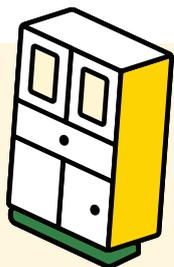
ポール式
+
ストッパー式



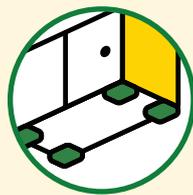
ベルト式



ポール式



ストッパー式



マット式

小

それぞれの家の
状況に応じた
転倒防止グッズを
使おう!



【実験概要】

●食器棚(H1,800mm、自重 65kg、収納物 50kg)

●フローリング・床

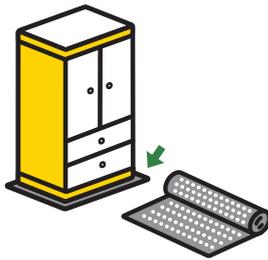
●震度6強の阪神・淡路大震災時の地震波を使用

(家具類の転倒・落下防止対策に関する調査研究委員会/東京消防庁)

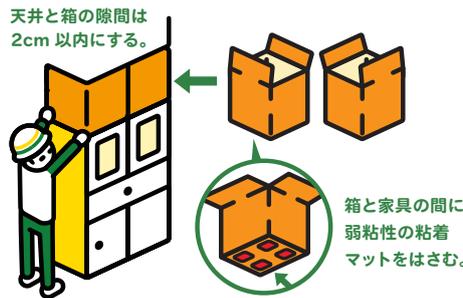


すぐにでもできる家の中の地震対策

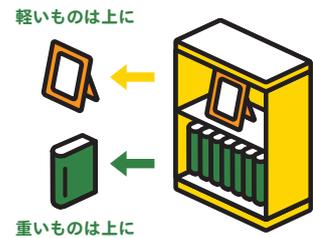
家具転倒防止



ストッパー式器具のかわりに、
滑り止めマットを敷く。

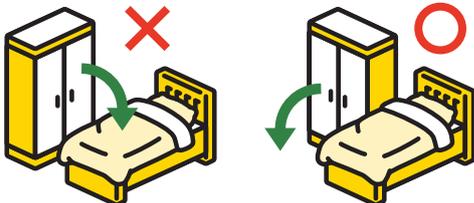


つっぱり棒のかわりに家具と天井の
隙間を段ボール箱などでつめる。

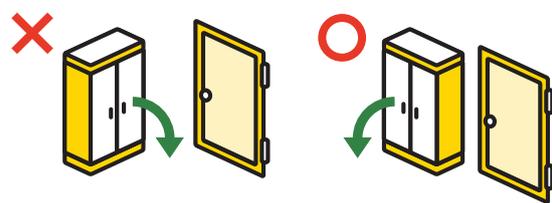


重いものを下に、軽いものを上に
収納し、家具を倒れにくくする。

家具配置の工夫



寝る位置に家具が倒れてこないように
家具の配置を工夫する。

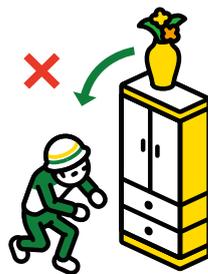


家具が転倒したときに避難の妨げになる
位置に家具を配置しない。

ガラスの飛散防止・危険物の落下防止



飛散防止フィルムのかわりに
うすいレース(昼間)や
カーテン(夜間)を引いておく。



家具類の上に落下すると
危険なもの(ガラス製品など)を
置かないようにする。

シンプル防災



大きな家具を置いていない
部屋で寝るようにする。